



令和7年1月30日

独立行政法人日本学術振興会

第15回（令和6（2024）年度）日本学術振興会 ^{いくし}育志賞の受賞者決定 （19名の優秀な大学院博士後期課程学生に授賞）

独立行政法人日本学術振興会（理事長 杉野 剛）は、本会に設置されている育志賞選考委員会（委員長 清水 孝雄：微生物化学研究所長、国立国際医療研究センターシニアフェロー）の選考に基づき、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生19名（うち、女性11名（過去最多））を日本学術振興会育志賞受賞者として決定しましたので、お知らせいたします。

<育志賞ウェブサイト： <https://www.jsps.go.jp/j-ikushi-prize/>>

1 日本学術振興会 育志賞について

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位20年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成21年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、本会では、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成22年度に「日本学術振興会 育志賞」を創設し、今回が第15回目となります。

本年は、大学の長及び学術団体（学会）の長から177名の大学院博士課程学生の推薦があり、大学長経験者等の有識者にて構成される選考委員会で厳正な審査が行われ、受賞者19名を決定しました。

2 授賞式等について

令和7年3月上旬頃に日本学士院（東京都台東区上野公園7-32）において、授賞式が行われる予定です。

（お問い合わせ）

独立行政法人日本学術振興会 人材育成事業部 人材育成企画課

「日本学術振興会 育志賞」担当

電話：03-3263-0912（直通）／E-mail：ikushi-prize@jsps.go.jp

（注）メールを送る際は「*」を「@」に置き換えてください。

第15回（令和6（2024）年度）日本学術振興会 育志賞 受賞者一覧

※五十音順、所属機関は令和6(2024)年5月1日現在

受賞者氏名 (性別)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
アダチ(イイダ) アカネ 安達(飯田) 茜 (女)	山形大学 (大学院理工学研究科) (地球共生圏科学専攻)	山形大学	脳間質液流動を模倣した開放系におけるアミロイドβ分子の凝集機構解明
イシダ カイ 石田 海 (男)	大阪大学 (大学院人間科学研究科) (人間科学専攻)	日本生理心理学会 大阪大学	脳の予測処理から明らかにする音が音楽として聞こえるメカニズム
イチカワ シュウスケ 市川 周佑 (男)	青山学院大学 (大学院文学研究科) (史学専攻)	青山学院大学	佐藤栄作政権の研究—内閣官房長官と自民党幹事長に注目して—
ウエノヤマ レイコ 上野山 怜子 (女)	岩手大学 (大学院連合農学研究科) (生物資源科学専攻)	日本味と匂学会	ネコのマタタビ反応の行動意義と発動機構に関する探究
オキタ ヒカリ 沖田 ひかり (女)	名古屋大学 (大学院工学研究科) (生命分子工学専攻)	名古屋大学	人工生命の創製に向けたL-スレオニン由来の人工核酸による自己複製系
キタムラ タイセイ 北村 泰晟 (男)	京都大学 (大学院理学研究科) (物理学・宇宙物理学専攻)	京都大学	量子幾何学に基づく量子凝縮相の理論研究
クマイ ユウスケ 熊井 勇介 (男)	東京大学 (大学院農学生命科学研究科) (水圏生物科学専攻)	日本水産学会	河川におけるウナギ属魚類の種組成決定・共存メカニズムの解明
コバヤシ ゴロウ 小林 悟郎 (男)	東北大学 (大学院情報科学研究科) (システム情報科学専攻)	東北大学	トランスフォーマー言語モデルの内部機序の解明
サトウ ユリコ 佐藤 祐理子 (女)	大阪大学 (大学院工学研究科) (マテリアル生産科学専攻)	溶接学会	アーク溶接中のプラズマ共存環境における熔融金属の電磁加速メカニズムの解明
シダ ナツミ 志田 夏美 (女)	京都大学 (大学院アジア・アフリカ地域研究研究科) (グローバル地域研究専攻)	日本文化人類学会	絨毯織りからみるウズベク牧畜民の「伝統」と生活文化

受賞者氏名 (性別)	所属機関	推薦機関	博士課程の研究テーマ
タカダ サクラ 高田 咲良 (女)	慶應義塾大学 (大学院理工学研究科) (基礎理工学専攻)	日本生物物理 学会 慶應義塾大学	人工細胞による再構成と物理解 析を用いた細胞内の時空間秩序 原理の理解
タガミ コト 田上 湖都 (女)	お茶の水女子大学 (大学院人間文化創成科学 研究科) (理学専攻)	お茶の水女子 大学	データ駆動による光ラジカル反 応の開発と含フッ素キラルアミノ 酸の不斉合成への展開
タケダ ハルナ 武田 遥奈 (女)	東北大学 (大学院医学系研究科) (医科学専攻)	日本生化学会 東北大学	代謝階層での新規マクロファ ージ炎症応答制御基盤の解明
ハマチ トモユキ 濱地 智之 (男)	九州大学 (大学院工学府) (応用化学専攻)	光化学協会	高感度 NMR/MRI 技術の創出に 向けた光励起三重項による生体 分子の量子超偏極
フジ サアシア 富士 彩紗 (女)	山口大学 (大学院創成科学研究科) (ライフサイエンス系専攻)	山口大学	植物の光による気孔開口を駆動 する分子機構の解明
フジオ チヒロ 藤尾 秩寛 (男)	九州大学 (大学院工学府) (航空宇宙工学専攻)	日本航空宇宙 学会	データ駆動/モデルベース知識 発見を通じたスクラムジェット最 適設計の指針確立
ホソヤ アツシ 細谷 篤志 (男)	学習院大学 (大学院人文科学研究科) (史学専攻)	学習院大学	近世朝廷の実務組織と国家・社 会
マエダ アカリ 前田 明里 (女)	名古屋大学 (大学院生命農学研究科) (応用生命科学専攻)	名古屋大学 日本植物生理 学会	植物の概日時計の頑健性を支え る分子基盤
ヨシモト アイリ 吉本 愛梨 (女)	東京大学 (大学院薬学系研究科) (薬学専攻)	日本薬理学会	心拍数を意図的にコントロール する神経回路

「日本学術振興会 育志賞」の概要

— 優秀な大学院博士後期課程学生の顕彰・支援 —

1. 事業の趣旨

日本学術振興会は、上皇陛下の天皇御即位 20 年に当たり、社会的に厳しい経済環境の中で、勉学や研究に励んでいる若手研究者を支援・奨励するための事業の資として、平成 21 年に上皇陛下から御下賜金を賜りました。

このような陛下のお気持ちを受けて、将来、我が国の学術研究の発展に寄与することが期待される優秀な大学院博士後期課程学生を顕彰することで、その勉学及び研究意欲を高め、若手研究者の養成を図ることを目的として、平成 22 年度に「日本学術振興会 育志賞」を創設しました。

2. 対象分野

人文学、社会科学及び自然科学にわたる全分野

3. 対象者

以下の①②の条件を満たす者を対象とする。

- ① 我が国の大学院博士課程学生（海外からの留学生を含む）であって、令和 6 (2024) 年 4 月 1 日において 34 歳未満の者で、令和 6 (2024) 年 5 月 1 日において次の 1) から 4) のいずれかに該当する者（5 月 1 日に休学中の者の扱いについては、※参照）

- 1) 区分制の博士後期課程に在学する者
- 2) 一貫制の博士課程 3 年次以上の年次に在学する者
- 3) 後期 3 年のみの博士課程に在学する者
- 4) 医学、歯学、薬学又は獣医学系の 4 年制博士課程に在学する者

※ 5 月 1 日に休学中の者については、11 月 1 日までに復学を予定している場合には、推薦できます。この場合は、令和 6 (2024) 年 11 月 1 日において、1) から 4) のいずれかに該当する必要があります。

- ② 大学院における学業成績が優秀であり、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいる者

4. 推薦権者

- 1) 我が国の大学の長（大学長推薦）

推薦数：人社系、理工系、生物系各 2 名、その他に分野を問わず 2 名の計 8 名まで

※ただし各カテゴリの推薦が男性のみの場合は各 1 名まで

- 2) 我が国の学術団体（日本学術会議協力学術研究団体に限る）の長（学会長推薦）

推薦数：2 名まで

※ただし推薦が男性のみの場合は 1 名まで

5. 選考方法

推薦のあった候補者について、書類選考により面接選考対象者を決定し、面接選考を経て、日本学術振興会に設置する選考委員会において、受賞者を決定します。

6. 選考基準

学業成績が優秀で、豊かな人間性を備え、意欲的かつ主体的に勉学及び研究活動に取り組んでいること。選考に当たっては、本賞の趣旨に鑑み、次の①から③を重視します。

- ① 我が国の学術研究の将来を担う研究者となりうる卓越した能力を有しており、将来学界等への貢献が期待されること
- ② 将来、更なる研究の発展が見込まれ、卓越した研究者に成長していく可能性を有していること
- ③ 経済的に困難な状況や、研究施設が必ずしも十分ではない等の厳しい研究環境の下でも創意工夫を凝らして、主体的に研究を進めていること

※上記に該当する者の例

- 発想・着想、課題設定などにおいて、創造性・独創性が高い研究に主体的に取り組んでいる者
- 当該学問領域や学際領域における重要な基盤となる研究に主体的に取り組んでいる者
- 研究活動に関連する、ユニークな活動に主体的に取り組んでいる者
- 短期的には論文等の成果が出にくい研究に対して、忍耐強く取り組んでいる者

7. 授賞等

授賞数は16名程度とし、受賞者には、賞状、賞牌及び副賞として学業奨励金110万円を贈呈します。

8. 受賞後の取扱い

受賞者は、希望により、所定の申請手続きを経た場合、受賞の翌年度から「日本学術振興会特別研究員（PD）」等に採用され、研究奨励金等（PDの場合：月額36万2千円を予定）が支給されます。

9. 第15回（令和6（2024）年度）日本学術振興会 育志賞 推薦状況

大学長推薦	学会長推薦	計
134名（120名）	56名（61名）	177名（170名）

（ ）内は、前年度の人数

※合計数は、重複推薦を1名として計上

1 0. 第15回（令和6（2024）年度）日本学術振興会 育志賞 日程

推薦依頼	令和6（2024）年3月6日
推薦書受付	令和6（2024）年5月23日～28日
予備選考（書面選考）	令和6（2024）年6月～10月
予備選考（面接選考）	令和6（2024）年11月
選考委員会	令和7（2025）年1月9日
授賞式	令和7（2025）年3月6日

1 1. 賞牌

このメダルの外形は、西洋では「学術」「発明」「知恵」など、日本では「天眼力」「神通力」にたけた鳥と言われているフクロウの卵を表しています。また中央に日本学術振興会のマークである長鳴き鳥を配し、連続模様で「広がり」を表現し、さらなる成長を期待するという趣旨でデザインしました。

（デザイン：東京芸術大学名誉教授 飯野 一郎）



1 2. 日本学術振興会 育志賞 選考委員会委員名簿

令和7年1月現在（敬称略）

氏名	所属機関・職
委員長 清水 孝雄	微生物化学研究所長、 国立国際医療研究センターシニアフェロー
大隅 典子	東北大学副学長、大学院医学系研究科教授
河田 悌一	関西大学東京センター長、 日本私立学校振興・共済事業団元理事長
田中 明彦	国際協力機構理事長
西澤 直子	石川県立大学長
花輪 公雄	東北大学名誉教授 海洋研究開発機構特任上席研究員
日比谷 潤子	国際基督教大学名誉教授
藤巻 朗	名古屋大学副総長、大学院工学研究科教授
森 初果	東京大学物性研究所教授